

| | | | |
|----------|-------------------------------------|----------------------|--|
| a 学校教育目標 | 豊かな心と表現力を養い、仲間と共に社会貢献できる、たくましい生徒の育成 | b 経営理念 ミッション・ビジョン | 【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 「生きる力」を育み、社会貢献できる生徒の育成 |
|----------|-------------------------------------|----------------------|--|

| | 評価計画 | | | | 自己評価 | | | | | 改善方策 n 改善方策 | 学校関係者評価 | | | |
|------------|-------------------------------------|------------------------------|---|---|---------|-------|-------|-------|------|--|---|--|--------|---|
| | c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策 | f 評価項目・指標 | g 目標値 | 10月 | 2月 | i 達成度 | j 評価 | | k 結果と課題の分析 | l 評価 | m コメント | |
| | | | | | | h 達成値 | h 達成値 | | | | | | | イ |
| 確かな学力の育成 | 主体的な学びを促す授業づくりにより、思考力・判断力・表現力を育成する。 | 指導方法の工夫・改善 | 「めあて」に対応した「まとめ」「振り返り」を行う。 話し合い活動を充実させるための指導の視点を共有する。 | 生徒アンケートの肯定的回答率 (課題の設定、学習過程、振り返りに係る設問) | 80% | 84% | 83% | 104% | A | ・「授業・単元のはじめに見直しをもっている」87% ・「自分の考えを積極的に発言している」78% ・「振り返りでわかったところを考えている」86% →平均としては、生徒の意識は目標値達成 →「自分の考えを積極的に発言すること」の数値が他よりも低く、意見を述べ合うことに課題 | ・意見を述べ合う必然性のある学習課題の提示と学習活動の工夫 ・意見を深めるために、活用できる資料等の提供や、意見の分類・整理等のまとめ方の指導 | ○ | | ・今の状態のなかで、工夫をされてやっておられる。 ・図形の授業で、その図形を文章で表現をさせている。国語力と数学力が必要だと思った。 ・違いについて、話し合いを取り入れている授業があった。あらかじめ違いについて調べてこさせることもあってよい。また、郷土三原との関係も視野に入れるとよい。 |
| | | | | 教職員アンケートの肯定的回答率 (課題の設定、学習過程、振り返りに係る設問) | 80% | 87% | 86% | 107% | A | ・「課題の提示」100% ・「学習過程」82% ・「振り返りの充実」76% →平均としては、教職員の意識は目標値達成 →「振り返りの充実」の数値が他よりも低く、振り返りの時間の確保や活用に課題 | | ・振り返りをするものの意義を踏まえ、全教科で組織的に「振り返り」を実施 ・振り返りをさせる視点を与え、例を示し、短時間で振り返りができるように指導 | ○ | |
| | | ◎思考力・判断力・表現力の育成 ↓ 学力向上 | 「活用」記述式問題を作成・実施・評価する。 活用の中で知識を習得させる授業づくりを行う。 | 「活用」記述式問題でB評価以上の割合 | 70% | 53% | 68% | 97% | B | ・中間と最終を比較すると15%上昇 →各教科、定期テスト等で継続的に取り組むことにより、教科の特性を生かし、学んだことを活用して書く力が向上 →記述式の評価について、採点基準や方法等、継続した検討が必要 | ・単元構想で、付けたい力に対して、「活用」記述式問題のB評価の「概ね満足できる状態」を設定 ・学習活動の中で、「活用」記述式問題に取り組ませ、課題発見・解決の過程を経験させる ・定期試験や単元テストで類似の問題を出題、検証 | ○ | | |
| たくましい心身の育成 | 自己指導能力の育成 (自ら考えより良く判断し行動する生徒の育成) | 生徒会活動の充実 | 生徒会活動を中心に、生徒の主体的な取組を充実させ、いじめ撲滅や絆づくり等に取り組む。地域等への貢献活動を促進する。 | 学校生活満足度についての生徒アンケートの肯定的回答率 | 90% | 95% | 94% | 104% | A | ・「学校へ行くのは楽しい」というアンケートの肯定的評価が10月とほぼ同じ94% ・いじめの積極的認知の観点から、今年度いじめが2件発生したが、早期の取組により解消 ・生徒・保護者アンケートを確認し、早期の取組実施 ・やさボランティアの参加人数が36人と積極的参加 | ・いじめ防止基本方針の周知徹底、いじめ発生時の対応を全教職員で確認 ・特別の教科道徳、学級での協働的な活動、いじめ撲滅に向けた生徒会活動を通して、いじめを許さない、発生させない取組を計画的に推進 | ○ | | ・授業を見ていると生徒は楽しそうに過ごしている。 ・学校に行きたくない人の学年ごとに傾向がありますか。 |
| | | 特別支援の充実 | 定期的に会議を開催し、不登校及びその傾向にある生徒に対する手立て等を検討し、組織的に取り組む。 | 不登校生徒数の全校生徒数に対する割合 | 3% | 1.5% | 2.1% | 100% | A | ・全校生徒における不登校生徒の割合2.1% ・生徒指導・教育相談委員会の定例開催(月2回)で、不登校生徒への個々の支援・取組の方向性を協議 | ・家庭との密な連携、関係機関との連携等、より組織的な対応を推進 | ○ | | |
| 働き方改革の推進 | 子供と向き合う時間の確保と長時間勤務の縮減 | 業務改善 | 学校経営会議のリーダーシップのもと、学校行事等の内容の見直しやスリム化を図るとともに、業務改善を促進する。 | 見直し、スリム化、業務改善が実行できた事項 | 学期に3つ以上 | 4つ | 2つ | 100% | A | ・生徒指導委員会と教育相談委員会の統合 ・日課表の変更(朝読廃止・水曜日掃除廃止) ・部活動休養日と定時退校日の設定 ・起案文書の管理・保管場所の統一 ・慣例化した行事の精選 ・学校で職員の予防接種の実施 | ・今後も、業務内容をスリム化したり廃止できるものを検討し、実現可能なものは積極的に実施していく | ○ | | ・働き方改革は難しいですか。遅くなる人は校長に申告はありますか。 ・体を壊さないようにしてください。 ・長くいればよく仕事をしているという意識の人がいると、隣の人もなかなか帰れない。 ・何をしたら改革になるのか。何か大きな改革がないといけない。 ・今の状態のなかで、工夫をされてやっておられる。 |
| | | 意識改革 | 組織的で計画的な業務推進とワークライフバランスの意識化を促進する。 | 定時退校日(部活動休養日)に17:15までに退校できた教職員の割合 | 90% | 71% | 71% | 79% | C | ・各月平均、4月69.7%、5月78.8%、6月71.5%、7月61.3%、8月74.9%、9月71.5%、10月74.6%、11月64.8%、12月69.3% ・定時退校ができるように、計画的な業務の推進を呼びかけたが、業務が増える時期は、定時退校をすることが困難 | ・一年間を通して、計画的に業務を行うために、日々の業務終了時間を意識 ・ワークライフバランスを考えた、計画的な年休取得を推進 | ○ | | |

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80≦(ほぼ達成) < 100 D: (できていない) < 60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。